

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000903), 法人名 (有限会社 Human-Hope), 事業所名 (グループホーム 自由の風), 所在地 (小樽市奥沢2丁目10番18号), 自己評価作成日 (平成31年2月1日), 評価結果市町村受理日 (平成31年3月19日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム自由の風は、利便性を重視した環境に恵まれており、近隣にはスーパー・ドラッグストア・美容室・洋菓子店など地域密着型として住みやすい場所に位置しています。町内会の行事に参加したり、運営推進会議にも町内会長を始め地域の方が参加して下さっています。一年を通して、いろいろな行事を考え入居者が毎日、楽しく安全な生活をして頂けるよう支援しております。長く勤務している職員も多く質の高いサービスを提供できるように職員同士が常に意識しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0172000903-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成31年3月5日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年11月に開設した「グループホーム自由の風」は、バス停から2分程の至近距離にあり、周りにはパン屋、スーパー、薬局、美容室等の商業施設や郵便局、寺院などがあり、親しみのある生活環境になっている。運営推進会議には、毎回、町内会関係者の出席を得ており、町内会行事の誘いや事業所への協力申し出があるなど、良好な関係を築いている。家族からも病院受診や外泊等の外出支援があり、利用者の意向や要望の把握が困難な場合は、家族から情報が得られるなど、共に利用者を支える関係にある。職員の半数以上は長く勤務しており、安定した支援が行われ、殆どの利用者や家族は、最期まで事業所で暮らし続けることを希望している。職員は先輩職員の姿勢から、利用者とのコミュニケーション能力を学び、利用者がどうしたいのか、どの様に支援が必要なのかを念頭に日々のケアサービスに取り組んでいる事業所である。

Table V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します. Columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果

①

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念を意識してケア行う事が出来るように職員が名札内に入れている。グループホーム内にも理念を提示して役職などに関係なく一緒に支援を実践している。	利用者を主体とした5項目からなる理念を介護の拠り所とし、事業所内の掲示やネームプレートの裏面に携帯することで、職員の意識付けが得られている。理念の見直しを考慮している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホーム行事や運営推進会議にも町内の方々に参加して頂けるように声掛けをしている。地域の交流が図れるように町内会の行事も参加している。	地域での物品の購入、町内会の新年会には管理者が出席し、地域の方々と交流が得られている。神社祭、寺院祭、小学校の運動会等に利用者を出かけている。運営推進会議等で相互の行事案内が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内見学の問い合わせがある場合には柔軟に対応して入居者の生活している雰囲気を見て頂き認知症への理解や支援方法を地域の方々にに向けて発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議開催し町内会長や包括支援センター職員に参加して頂き情報交換を行っている。議事録は全職員が閲覧してサービス向上に努めている。	会議は、2ヶ月毎に町内関係者、行政の出席を得て開催している。身体拘束廃止や防災、終期末等の議題に沿い意見交換が行われ、議事録を家族に送付することで、事業所の取り組みの周知に繋げている。	会議の活性化に繋がる取り組みとして、知見者やキーパーソン以外の家族にも参加要請と、議題の工夫に期待したい。さらに、議事録に事業所の活動や利用者の状況報告記載も望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム運営を行っていて疑問点等が出た場合には市役所の介護保険課、生活支援課に連絡を取り確認している。集団指導にも参加して協力関係を築いている。	書類提出時や相談等は、各担当窓口を訪れているが、時には電話やメールでもやり取りがあり、助言や提案を得て運営の充実に繋げている。運営推進会議、集団指導、実地指導に於いても情報を各担当者と共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針を基に定期的な研修を行っている。運営推進会議でも身体拘束廃止委員会を実施して職員以外の方々からも意見を頂いている。外部の研修にも参加している。	身体拘束適正化の取り組みは、指針を整備し、運営推進会議の中や職員間で適正化委員会を発足している。外・内部研修等で言葉遣いや不慣れた薬の使用、グレーゾーンも不適切行為である事を学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の知識を研修などを通じて職員全体が共有出来るようにしている。日々のケアの中でも虐待につながりそうなケースは無いのかを確認しあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に成年後見制度等の権利擁護に関する研修に参加して制度の理解を深めて必要時に活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時(解約時)には十分な時間を取り今後の不安点を確認している。分からない事があればいつでも確認して頂けるように声掛けもしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族への連絡を行い入居者の健康面や生活の様子を伝えている。面会時にも職員から声掛けをして意見や要望を聞く機会を設けている。管理者が必要に応じて運営に反映している。	家族には面会時や電話、手紙、事業所便り、運営推進会議の議事録等で、利用者の日常を報告している。利用者、家族から運営についての意見は殆ど無いが、出された場合は、出来る限り速やかな対応に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や日々の会話の中から職員の意見を聞き出しグループ内で行われるテレビ会議を通じて管理者が代表者へ提案している。	代表者は常に事業所を訪れ、職員に声かけをしている。職員は、行事等の各部門を担当し、上司に意見や提案を率直に述べている。代表者や管理者による個人面談も行われ、働きやすい環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が長く勤務出来るようにキャリアパス制度を設けて職場環境の整備を行っている。有給休暇の取得も積極的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合った研修に参加できるようにグループ内研修を定期的に開催している。質の向上を目指して外部の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での交流が行えるように研修や勉強会を行っている。市内のグループホーム協議会の懇親会などにも参加し意見交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人に時間をかけて面談を行いホームでの生活をして行く上での不安な事を聞き出し安心した生活が送れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族への面談を行いグループホームでの生活を行って行く上での心配事や要望を聞きだし信頼関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、家族にグループホームを実際に見学して頂き雰囲気を確認してもらい必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を人生の先輩として敬う気持ちを忘れずに本人がどのように考えているかを常に考えて行動している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際には情報交換を行いながら入居者との良好な関係が継続できるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りや公園などに出かける機会を設けて馴染みの場所で過ごす時間を作るようにしている。家族の協力を得て散歩に出かける場合もある。	神社祭では、前庭に子供神輿の披露があり、利用者が出迎えるのが恒例行事となっている。面会に訪れる方を歓待し、電話や手紙、年賀状を取り次ぎするなど、馴染みの関係を大事にしている。家族の支援で馴染みの場所を訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が交流できるようにリビングの配置の工夫を行っている。孤立する利用者出ないように配慮もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了しても家族との関係を一方的に断ち切らず必要時には情報の提供などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中から入居者の考えている事を把握して日々のケアに活用している。困難な場合でも家族の協力を得ながら本人本位になるようにしている。	日常生活の中で、会話や表情、状態を見極め、利用者が何を望んでいるかを推察している。家族からの情報や、入居時から積み上げてきた情報を基に、満足度が高められるよう職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り今までの生活が続けられるように入居者の持ち物や装飾品を持参して頂き暮らしの中で使用して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りノート等を確認しながら入居者の生活の様子を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心となり入居者、家族の意向を重要視して職員や医療機関との連携を行いながら介護計画を作成している。	利用者を主体とした介護計画になるよう、利用者や家族の意向を踏まえ、医療関係者の意見や介護記録等を参考に会議で検討している。介護記録で介護目標の達成状況が常に確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には入居者の状態が分かるように詳細に記入するようにしている。介護支援専門員がカンファレンス等を通じて介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時の引っ越しや入居後の病院送迎などを家族の負担を考慮して職員が中心となり行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで得た情報を基に地域資源を把握し利用者が活用できるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医との関係が継続できるようにしている。かかりつけ医が遠方などにあり継続困難な場合でも可能限り利用者、家族の意見に沿うようにしている。	受診先は、利用者や家族の意向を尊重している。それぞれの医療機関から往診が得られ、また、他科受診は、家族の協力を得ながら職員が同行し、結果は関係者と共有している。週2回、看護職員による健康管理もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康状態で気になる点が出た場合にはホーム内の看護師や往診時の看護師に相談して指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医には日頃から健康面での相談を行い指示を受けている。利用者が入院をした場合には早期退院に向けて入院先の医療機関と主治医との情報共有が出来るような関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えた場合に入居者が希望する形になるように早い段階で話し合いを持つようにして医療機関への連携やホームでの看取り体制を作っている。	入居時に、重度化した場合の指針と看取りに関する方針を説明して同意を得ている。利用者の意向は家族から得ており、状態悪化時は、看護職員、医療関係者、家族と段階的に協議し、チームケアとしての看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が入居者の体調変化や事故発生時に適切な処置が行う事が出来るようにホーム看護師を中心に訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に避難訓練を定期的に行い職員が災害に対応できるようにしている。避難訓練時には地域の方々にも声掛けを行っている。	消防署や地域住民、家族の協力を得て、夜間想定火災避難訓練を実施し、3月中に震災を含む日中想定火災の訓練を計画している。さらに、2回の自主訓練や災害時の研修を行うなど、防災意識を高めている。備蓄品も随時用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に話をする時には丁寧な言葉がけをするようにして人生の先輩に対して失礼のないように常に心掛けている。	排泄や入浴、着替え時での配慮や言葉遣いなど、親しみと馴れの違いを認識した対応に努めている。不適切なケアには、上司の助言や職員間で注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分の考えを表現できるように日々の会話の中から聞き出して自己決定を行える後押しをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムを尊重して職員の業務を変更して希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者が自分好みの洋服や装飾品を選ぶことが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れたり行事食を通じて食事が楽しみになるように工夫をしている。食材の準備や後片付けも手伝って頂いている。	食材と献立は業者から配達されるが、要望を伝え、旬の野菜などで食がすすむ内容になっている。クリスマスには利用者とピザを作ったり、お寿司を食べに出かけ、出前でオードブルを、時にはバイキング方式にしたり、玄関前で焼肉等を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるカロリー計算をされた食材を提供している。食事(水分)摂取が困難な方には形態を変更して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを行い口の中の状態を確認して磨き残しがある場合には介助している。歯科衛生士による往診も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の利用者の排泄パターンを把握して声掛けや誘導を行い可能な限りトイレの排泄が出来るように支援している。	自力でトイレに行く方もいるが、全員の排泄状況をチェックし、声かけや誘導、見守りを行いトイレでの排泄支援に取り組んでいる。布下着や衛生用品は、利用者や家族の意向、職員の提案を反映し使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状態が長く続くことがないように毎日の排泄状態を確認して必要に応じて軽運動や牛乳などの飲み物を飲んで頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね1週間に2回の入浴が行えるように声掛けをしている。入居者が気分よく入浴が出来るように時間やタイミングにも注意している。	入浴は、浴室を暖め、足湯をしながらのシャワー浴もあるが、同性介助の要望を受けとめ、湯船の中でリラックスできるよう支援している。利用者は世間話をしながら、湯上がりはカルピスで喉を潤している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に関係なく休息や良眠が行えるように入居者の状態を見ている。消灯時間は設けていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から提供される薬の情報を職員が閲覧出来るように副作用や効能を確認している。服薬時には飲み込みまでの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の体調面を考慮しながらホーム内の掃除や調理の手伝いをして頂いている。音楽療法を取り入れて気分転換も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム内の買い物を入居者と一緒に行っている。家族の協力を得ながら散歩や近隣への外出もしている。病院受診の際にドライブに出かける場合もある。	利用者の状態もあり遠出の外出は難しいが、玄関先での日光浴や焼肉、近所の店で買い物、公園の桜観賞、地域のお祭り見物、外食、ドライブで外気に触れている。外出は、家族の支援も得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望に沿った買い物が出来るように支援している。家族の同意を得て金銭を自分で所持している人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望がある場合には家族への電話連絡を行い近況報告が出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースが不快な状態にならないように温度、においなどに注意している。季節を感じて頂けるような飾りつけや写真の掲示も行っている。	温湿度、清掃、音にも配慮がある広い居間は、日射しが入り温かな雰囲気の中で、利用者は職員と会話をしながら食事をしたり、季節に因んだ作品を作り、ソファで寛ぎながら窓から四季の変化を眺めており、生活にメリハリをつける環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを複数配置して利用者の意向に沿った空間を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活と変化がないように利用者が利用していた物や趣味を反映できるようにして気分よく生活が出来るような工夫をしている。	約6畳ある居室の入口には、非常時用にもなる表札を掲げている。利用者や家族が選んだ家具や生活用品、愛用品等を持ち込み、自分の部屋としての存在感がある設えになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内で困る事が少なくなるようにトイレの表示や居室に名札を付けて安全で自立した暮らしになるように工夫をしている。		